

ひだまり

令和5年5月26日(金)
足立区立中川東小学校
道徳通信 第2号
校長 豊田 純子
道徳教育推進教師 前田 康介

中川東小の子供たち

中川東小学校の子供たちを見ていると、子供たち同士の関わりが深く、みんなで一緒に活動することを楽しんでいることが感じ取れます。相手を思いやり、行動している姿が見えてきます。



道徳教育は学校の教育活動全体を通じて行います。その要である道徳科以外にも、学校では道徳性を養う場があります。例えば、縦割り班活動では他学年と交流します。楽しいことはもちろんですが、高学年は低学年の面倒を見たり低学年は高学年との交流を通して学び、安心して学校生活を送ったりすることが出来ます。また係活動、クラブ活動、委員会活動など自ら考え行動したり、相手の思いを考えながら関わったりする場面がたくさんあります。こうした中で、子供たちが温かい心で相手に接し、親切にしたり相手の立場に立ったりすることを学んでいます。

一方、相手のことよりも自分中心に考えて行動してしまうこともあります。友達とのやり取りで言い争いになることもあるでしょう。日々の教育活動とともに、道徳の授業を通して自分自身を振り返り、自己を見つめさせていきたいです。

◇6年生の道徳の時間◇



<令和5年5月11日 前田学級>

教材名:	『ひとみと厚』
主題名:	異性との友情を大切にするとはい? (授業のテーマを「主題名」と表します)
ねらい:	友達と互いに信頼し合い、学び合って友情を深め、異性についても理解しながらよりよい人間関係を築いていこうとする意欲を高める。

このお話は、ひとみが同じクラスの厚と運動会の朝練をし、見事選抜リレーの選手に選ばれたという内容です。ひとみは、厚に励まされながら練習をする中で、周りの友達の言葉(冷やかしかやからかい)にお互いを意識していつも通り話することができなくなってしまいます。そんなぎこちない関係の中、ひとみはついに厚にきちんとお礼を言おうと決意します。

授業の前半では、ひとみの気持ちを中心に、学級全体で話し合いました。

- ①「朝練をしている時のひとみの気持ちは？」
→一緒に頑張りたい！みんなで選手に選ばれたい！みんなで練習するから楽しい。
厚さんのおかげで速く走れるようになっている。
- ②「周りの言葉を聞いたひとみの気持ちは？」
→そんなつもりじゃないのに。ただ一緒に練習してただけなのに。
相手が男子だからそんなこと言うのかな。厚さんにお礼をしなきゃ。

授業の後半では、自分のこれまでの考え方を振り返りながら、異性との友情について考えました。子供たちからは、「性別によって態度が変わることはよくない。」「そもそも性別は関係ない。友達なんだから、お互いが楽しくいられる関係を作るべき。」などの意見が出されました。

高学年になると、子供たちはこれまで以上に異性との関係を意識します。これは子供たちが第二次性徴期に入るため、当然のことです。ですが、子供たちが発言したように、「異性だから」という見方ではなく「異性だけど」という思いがきっと大切なのだと思います。